

地方独立行政法人静岡市立静岡病院

令和 7 年度計画



地方独立行政法人静岡市立静岡病院

目 次

	頁
第 1 年度計画の期間	1
第 2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 地域における役割・機能と担うべき医療	1
（1）静岡病院が担う役割・機能	
（2）静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療、救急医療、感染症医療、災害時医療等）	
2 患者の視点に立った信頼される医療の提供	3
（1）患者中心の医療の推進	
（2）医療安全対策	
（3）患者サービスの向上	
3 医療従事者の確保と働き方改革	5
（1）医療従事者の確保	
（2）医療従事者の働きやすい環境づくり	
4 地域との連携	6
（1）地域の医療機関との連携	
（2）市や関係機関等との連携	
（3）市民への情報提供	
第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 効率的な業務運営等	7
2 教育研修の充実	8
3 職員の勤務意欲の向上	8
4 事務部門の強化	9
第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 経営指標に係る数値目標の設定	9
2 収入の確保及び費用の節減	9
第 5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置	
1 法令等の遵守	10
2 施設・医療機器等の更新	11
第 6 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画	
1 予算	12
2 収支計画	13
3 資金計画	14
第 7 その他市の規則で定める業務運営に関する事項	
1 施設及び設備に関する計画	14
用語解説	15
（本文中、＊印のついた用語について解説しています）	

はじめに

静岡市立静岡病院は、救急医療や高度医療の提供など市立病院としての使命と、中期目標で求められている持続可能な地域医療の実現に向けて取り組み、目標の達成と病院経営の安定を目指す。

このため、質の高い医療及び患者中心の医療の推進、人材確保と働き方改革、地域医療機関との更なる連携、効率的な業務運営、将来を見据えた施設整備、経常収支比率の向上などを念頭に、令和7年度の重点事業、予算、収支計画、資金計画等を以下のとおり定める。

なお、本計画は、公立病院経営強化ガイドライン*や静岡県地域医療構想*を踏まえ策定した、当院における「公立病院経営強化プラン」である第3期中期計画（令和5年4月1日～令和9年3月31日）の一部である。

第1 年度計画の期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日までの1年間とする。

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域における役割・機能と担うべき医療

(1) 静岡病院が担う役割・機能

国が策定する医療政策や静岡県地域医療構想の動向、団塊の世代が75歳以上となり、医療／介護の複合的ニーズを有する高齢者の増加と生産年齢人口が減少している現状（2025年問題*）を踏まえ、また、今後進む85歳以上の人口増加や現役世代の人口減少（2040年問題*）に伴う医療需要の変化を視野に入れ、中長期的課題を整理し、限りある医療資源の中で変化する医療ニーズを支え、静岡市の基幹病院として患者の状態の早期安定に向けた質の高い医療の提供と効率化を図ります。

また、社会保障制度の活用や病病／病診連携の推進など、在宅復帰に向けた入退院支援により、治し・支える医療の提供に努めます。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
DPC入院期間Ⅱ*以内退院割合	67.1%	66.1%	69.8%	70.0%
入退院支援加算*算定件数	5,426件	6,665件	7,595件	5,500件
地域連携パス*（疾患別病診連携パス） 新規利用件数	526件	362件	440件	450件

参考値

項目		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
重症度、医療・看護必要度Ⅱ*		39.8%	36.1%	36.6%
在宅復帰率*		97.8%	97.0%	97.4%
医療機能別病床数	高度急性期*	500床	355床	306床
	急性期	0床	145床	194床

(2) 静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療、救急医療、感染症医療、災害時医療等）
（高度医療・専門医療）

ハートセンター、大動脈・血管センター、消化器総合センター、おなかのヘルニアセンターなど多職種が連携するチーム医療体制により、静岡医療圏及び近隣医療圏の中核的な役割を担い、当院の強みである高度／専門医療を提供します。

地域がん診療拠点病院*として、がん治療の専門性と多職種スタッフの技術・経験を最大限に活かし、ロボット手術や外来化学療法などの非侵襲的な集学的治療の拡大により高い治療効果を目指します。

また、令和6年度に設置した「ゲノム医療センター」にてゲノムの解析による最適な投薬や治療を行う「がんゲノム治療」を令和7年4月より開始し、がんゲノム医療連携病院*として、高度ながん治療に取り組んでいきます。

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
カテーテルアブレーション*件数	321 件	368 件	411 件
冠動脈インターベンション*件数	442 件	388 件	477 件
開心術件数	267 件	212 件	203 件
T A V I	97 件	103 件	101 件
ステントグラフト治療*件数	117 件	107 件	130 件
ロボット支援手術件数	118 件	131 件	152 件
内視鏡手術件数	1,002 件	1,109 件	1,187 件
内視鏡検査数	4,361 件	4,805 件	4,881 件
P E T／C T稼働件数	726 件	767 件	793 件
悪性腫瘍手術件数	737 件	771 件	742 件
がん化学療法延べ患者数	3,751 人	3,827 人	3,921 人

（救急医療）

軽症患者から重症患者まで症状の重度によらずより多くの救急搬送患者を受け入れ、「断らない救急医療」の継続と高い応需率を維持するとともに、清水地区や近隣医療圏を含めた広域的な救急対応や救急隊とのコミュニケーションの強化により、地域における救急医療体制の中心的な役割を担い、市民の安心・安全な生活を支えます。

また、令和6年度にハイケアユニット病床を増床したことにより、救急からの重症患者に対する対応力を一層強化します。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
救急搬送応需率*	97.5%	95.9%	97.6%	95.0%

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
救急患者数	11,292人	12,958人	13,305人
救急車搬送患者数	5,875人	6,989人	7,548人
地域救急貢献率*	19.6%	20.4%	20.6%

(感染症医療)

県内唯一の第一種感染症指定医療機関*として、新型コロナ対応で得られた経験を踏まえ、速やかな受け入れと適切な感染管理を引き続き実践します。

今後も新興・再興感染症の発生・まん延時に備えるとともに、平時から行政機関及び近隣医療機関との連携を図り、継続的な職員教育や個人防護具の確保・備蓄により、患者および職員を感染から守ります。

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
感染症対応用確保病床数(最大確保数)	32床	28床	23床
紫外線照射ロボット*稼働実績	2,506回	2,050回	1,072回
手指衛生用消毒液購入量	3,386ℓ	2,830ℓ	2,215ℓ
入院患者1人1日あたり病棟用購入量	18.9ml	17.4ml	13.8ml

(災害時医療)

今後、発生が想定される南海トラフ地震等の大規模災害の発生に備え、災害対策管理室の体制強化や各種訓練の実施、非常用設備・備蓄品の見直し等を引続き行うことで、災害拠点病院として医療機能を継続できる体制を維持します。

また、広域災害発生時には、厚生労働省からのDMA T(災害派遣医療チーム)派遣要請に基づく被災地への派遣により、医療救護活動の支援を行います。

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
防災訓練開催回数	4回	4回	4回
DMA T隊チーム数	2チーム	2チーム	2チーム

2 患者の視点に立った信頼される医療の提供

(1) 患者中心の医療の推進

患者・家族がより良い療養、社会生活が送れるよう、専門職による医療相談や退院調整により迅速な患者支援を行います。

患者の心と体に寄り添い、患者・家族と医療者が互いに情報を共有し、十分理解したうえで共に医療過程に参加できるよう努め、患者が中心となる医療を提供します。

参考値

項目		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
総合相談件数		5,028 件	5,285 件	5,714 件
(内訳)	退院調整（在宅）	50.3%	49.0%	45.3%
	退院調整（転院）	29.8%	30.3%	27.4%
	経済的な相談	7.8%	5.2%	3.9%
	受診に関する相談	5.6%	1.9%	2.1%
	その他	6.5%	13.6%	21.3%

(2) 医療安全対策

医療安全意識の更なる向上を図り、医療事故の予防と再発防止のため、インシデントレポート*による報告を推進します。インシデントレポートは医療安全作業部会を中心に要因を分析するとともに防止策の立案に努めます。このほか、他の医療機関との連携体制の構築や職員研修により、医療安全対策の強化に向けた取組みを継続していきます。

また、クリニカルパス*の活用による治療プロセスの標準化を推進し、質の高い安全な医療の提供に努めます。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
インシデントレポート件数（※）	2,194 件	2,702 件	2,865 件	2,200 件

※ 続発症含む

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
入院患者の転倒・転落発生率*	0.26%	0.28%	0.28%
医療安全作業部会開催回数	33 回	43 回	52 回
クリニカルパス数	126	166	207

(3) 患者サービスの向上

患者満足度調査の結果や提案箱へのご意見を真摯に受け止め、療養環境及び患者サービスの現状と課題を把握し、迅速な対応を心掛けるとともに患者サービスの向上に努めます。

また、委託業者を含む全職員を対象に接遇の大切さを浸透させ、常に患者や家族の立場に立ち、誠意を持った対応と接遇レベルの向上を図ります。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
入院患者満足度（※）	87.2%	89.8%	91.6%	90.0%
外来患者満足度（※）	80.1%	83.7%	89.6%	85.0%

参考値

項目		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
入院患者満足度（接遇項目のみ）（※）		86.8%	92.9%	92.9%
外来患者満足度（接遇項目のみ）（※）		82.2%	87.3%	87.5%
提案箱投書件数		128 件	94 件	106 件
（内訳）	苦情	44.5%	45.7%	54.7%
	提案、要望	32.8%	29.8%	18.9%
	感謝、お褒め	20.3%	24.5%	24.5%
	その他	2.4%	0.0%	1.9%

※「満足」以上とした割合

3 医療従事者の確保と働き方改革

（1）医療従事者の確保

高度／専門医療、救急医療等の安定的な提供を図るため、大学や専門学校など関係教育機関との連携強化により医師、看護師、薬剤師など医療従事者の確保に努めます。

また、新専門医制度における内科、外科及び麻酔科の基幹病院として、引き続き専攻医の確保と育成に努めるほか、その他診療科においても、連携病院として積極的に専攻医の受け入れを行います。

参考値

項目		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
医師・歯科医師数		163 人	167 人	169 人
	（うち、専攻医数）	（29 人）	（35 人）	（29 人）
	（うち、研修医数）	（26 人）	（26 人）	（27 人）
助産師・看護師数		533 人	528 人	526 人
医療技術員数（※）		169 人	170 人	174 人
各種専門資格を有する職員数		125 人	126 人	138 人
（内訳）	医師・歯科医師	92 人	92 人	102 人
	助産師・看護師	16 人	18 人	19 人
	医療技術員数（※）	17 人	16 人	17 人

※ 医療技術員・・・薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

（2）医療従事者の働きやすい環境づくり

職員が心身ともに健やかに安心して働くことができるよう、ワークライフバランスの充実や意識改革をより一層推進します。

このため、政府が進める「働き方改革」を踏まえた長時間労働の是正や勤務環境の改善、タスク・シフト／シェア、チーム医療の推進等、総合的な取組みにより質の高い医療の提供と医療現場の健全な働き方を目指します。

この取組みと共に、職員の年次有給休暇の取得促進と、医師労働時間短縮計画に基づく時間外労働の縮減を図ることで、ワークライフバランスの確保に努めていきます。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
有給休暇の年間取得日数(医療従事者)	12.4日	12.6日	12.3日	13.0日
医師の平均時間外勤務時間数	41.1時間/月	48.5時間/月	48.6時間/月	43.0時間/月

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
有給休暇の年間取得日数(医療従事者)			
(内訳)			
医師・歯科医師	9.3日	9.7日	12.1日
助産師・看護師	13.8日	13.8日	11.8日
医療技術員(※)	11.4日	11.9日	13.8日
時間外勤務 年960時間超えの医師数	5人	14人	12人
看護師特定行為研修*修了者数	4人	2人	8人
うち、当院職員修了者数	3人	1人	6人

※ 医療技術員・・・薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

4 地域との連携

(1) 地域の医療機関との連携

地域医療支援病院*として地域の医療機関との病病／病診連携を推進し、イージーイーツーネット*の活用や研修会の開催等による顔が見える連携に取り組み、信頼関係の構築と紹介／逆紹介率の更なる向上を目指します。

また、令和7年度よりJ A 静岡厚生連静岡厚生病院と静岡赤十字病院との3病院医療機能連携協定を締結し、緊密で円滑な交流と相互が有する医療機能を最大限に発揮した医療相互連携の強化に努めます。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
紹介率*	86.6%	90.6%	90.8%	87.0%
逆紹介率*	140.0%	155.5%	153.5%	140.0%

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
連携安心カード(オレンジカード)* 新規発行枚数	273枚	231枚	231枚

(2) 市や関係機関等との連携

医療、保健、福祉サービスの各分野の関係機関と連携し、高度／専門医療や救急医療など政策医療の継続的かつ安定的な提供と、災害や新興／再興感染症の発生など非常時における迅速な医療活動に努めます。

教育機関等からの実習を積極的に受け入れ、地域の医療技術の向上と医療機関への定着の契機となるよう公的医療機関としての役割を果たします。

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
看護実習受入実人数（看護学校）	260 人	482 人	554 人
救急救命士実習受入人数（消防局）	12 人	2 人	14 人
障がい者職場実習受入人数（支援学校等）	1 人	9 人	1 人

（3）市民への情報提供

市民・患者へ疾患に対する正しい知識や健康増進への啓発活動として、市民向け「からだの学校」等の公開講座や各地域への出前講座、学生を対象とした「がん教育*」など対面による講座開催のほか、病院ホームページや病院広報誌等でも、医療に関する知識の普及と病院の現況について情報発信を行っています。

今後は、これら活動に加え令和6年度より開始した公式LINEや公式YoutubeなどのSNSを活用し、ホームページとの重層的な情報発信を行い、より病院が身近に感じられるような情報提供体制を進めていきます。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
病院ホームページ訪問数（※）	523,057	453,099	471,482	550,000

※ 訪問数…セッション数。ホームページへのアクセスから離脱までを「1」とする指標。

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
病院出前講座 受講延べ人数	256 人	1,036 人	730 人
中学生対象「がん教育」活動実績	7 校 12 講義・8 日間	9 校 15 講義・11 日間	9 校 14 講義・9 日間

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 効率的な業務運営等

近年の長期に渡る物価高騰や人件費の増加など、医療を取り巻く経営環境が厳しさを増す中にあっても、当院が地域基幹病院として求められる医療を継続して提供するため、更なる効率的な業務運営が求められます。

重要業績評価指標（KPI）に基づく進捗管理と経営分析を行います。また、経営に関し参考となる先進事例の情報収集や研究を積極的に取組むことで、併せて院内職員のマネジメント能力の向上を図ります。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
1日平均入院患者数*	399 人	419 人	407 人	420 人
平均在院日数*	11.4 日	11.6 日	10.6 日	11.0 日

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
入院単価	90,601 円	91,128 円	96,807 円
新入院患者数	11,787 人	12,110 人	12,795 人

2 教育研修の充実

将来を担う優れた医療人として成長できるよう、研修会の開催や自己研鑽の機会の提供など教育研修の充実に努めます。

医療スタッフに対し必要な高度専門医療の手法や技術を提供するため、拡充したシミュレーション・ラボ室による実習プログラムの充実に図るとともに、臨床研修プログラムの改訂を適切に行い、研修医の教育体制を整えます。

このため、臨床研修指導医の適正配置を検討し、指導医の資格取得の推進により臨床研修医や特定行為研修受講者の育成などに取組みます。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
実習プログラム（※）受講延べ人数	1,319 人	1,780 人	1,498 人	1,100 人

※ 実習プログラム…主に医師・看護師対象の、トレーニング機器を利用した診療行為別の訓練メニュー

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
シミュレーションラボ室*利用延べ人数	3,775 人	4,309 人	3,848 人
臨床研修指導医数	54 人	56 人	59 人

3 職員の勤務意欲の向上

職員満足度調査により職員の意見や要望を把握し、職場環境の整備や処遇の改善など各種施策に取り組めます。職員の専門性や能力を反映した人事制度や管理職への積極的な登用、自己啓発への支援などにより勤務意欲の向上を図ります。

多様な勤務形態や復職支援による離職防止、認定看護師、専門看護師、特定看護師等の資格取得を積極的に奨励します。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
職員満足度（5段階評価）				
Q.現在の仕事にやりがいがあると思いますか	3.72	3.71	3.78	3.75
Q.当院を職場としてすすめようと思いますか	2.92	2.92	2.91	2.95

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
資格取得支援制度利用者数	7 人	7 人	8 人
教育休職制度等利用者数	1 人	2 人	1 人
育児・介護休業制度利用者数	78 人	75 人	84 人

4 事務部門の強化

病院運営に必要な事務能力が幅広く蓄積・継続されるよう、医療職等との協働によるOJT*や幅広い職務内容を経験し個々の職員の成長を促すための、適切な人事異動を行います。また、それぞれの事務内容について業務フローの見直し／可視化と標準化を進め、すべての事務職員が速やかに能力を発揮し、業務効率が維持できるよう努めます。

令和7年度より開始する「事務職員人材育成プラン」により、各種研修への参加や目標管理など事務部門の強化を図ります。

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
自院主催研修 事務職員受講者数	63 人	60 人	63 人
静岡市主催研修 事務職員受講者数	20 人	19 人	17 人
医療団体等主催外部研修 事務職員受講者数	6 人	9 人	19 人

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 経営指標に係る数値目標の設定

食材料費、光熱費をはじめとする物価高騰の状況、約30年ぶりの高水準となる賃上げの状況といった社会情勢は、医療サービスの提供や人材確保にも大きな影響を与えており今後も不透明な状況にあるが、高度かつ良質な医療を提供する責務を担う地域の基幹病院として、最小の費用で最大の効果が発揮できる健全な経営に努め、第3期中期目標期間における経常収支比率*100%以上を目指します。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
経常収支比率	105.4%	105.1%	100.4%	95.7%以上
医業収支比率*	92.4%	94.2%	94.4%	90.4%以上

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
不良債務比率*	0%	0%	0%
資金不足比率*	0%	0%	0%
累積欠損金比率*	0%	0%	0%

2 収入の確保及び費用の節減

【収入の確保】

患者の状態に応じた高度／専門医療の提供や地域の医療機関との連携、医療資源の効率的な運用と適切な病床管理、専門知識を有する職員の配置と算定率の向上や制度改正への対応等に取り組む、事務部門と医療部門の協働により医業収益の確保を目指します。

【費用の節減】

今後も物価高騰が見込まれるなか、医療の質と安全の確保や患者サービスの向上等に配慮し、医療需要等を勘案した職員の配置、診療材料の値引き率改善等により医業費用の節減に努めます。

目標値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和7年度 目標値
職員給与費比率*	49.4%	48.2%	46.8%	50.0%以下
経費比率*	17.3%	16.2%	15.7%	18.0%以下
委託費比率*	9.1%	8.2%	8.0%	9.1%以下

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
病床稼働率* (506床)	78.8%	82.8%	80.4%
入院収益	13,182 百万円	13,931 百万円	14,416 百万円
外来収益	5,454 百万円	5,926 百万円	6,247 百万円
薬品費比率*	17.2%	18.3%	18.6%
診療材料費比率*	16.8%	16.1%	17.2%

第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

1 法令等の遵守

公的使命を適切に果たすため、医療法をはじめとする関係法令や内部規程を遵守し、適切な病院管理と各種規程の整備に努めます。内部監査や職員を対象とした研修により、法令・規程等を遵守する意識の醸成とその重要性について周知徹底します。

参考値

項目	令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 実績
医療法第25条第1項に基づく立入検査*での指摘事項数	0件	0件	0件
個人情報保護講演会受講者数	679人	777人	817人
ハラスメント防止研修会受講者数 (所属長対象)	41人	55人	78人

2 施設・医療機器等の更新

医療政策の動向や医療需要の変化、物価高騰等が見込まれる社会情勢を踏まえながら、必要性和採算性を十分に考慮し計画的な高度医療機器の更新及び整備を行います。

令和7年度の施設整備については西館熱源設備更新工事など、高度医療機器についてはハイブリッド手術室対応血管撮影装置、無影灯などの更新を行います。

＜主な施設設備及び医療機器の更新＞

- ・ハイブリッド手術室対応血管撮影装置更新
- ・無影灯更新
- ・手術台更新
- ・西館熱源設備更新工事
- ・病理検査室局所排気装置設備工事
- ・防犯用監視カメラ設置工事

医療DX*については、令和6年度に導入したRPA*による業務改善を進めるとともに、令和7年度の導入を予定してる院内スマートフォンを活用した業務の効率化と職員コミュニケーションの円滑化など、業務にメリットがあるツールの導入に取り組めます。また、生成AIを使用した業務の効率化が可能か、検討を行います。

老朽化した西館等の施設については、医療の高度化や技術の進展に適応するため、市と十分に連携を図りながら、再整備に向けた検討を進めます。

第6 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

1 予算（令和7年度）

（単位：百万円、税込）

区分		金額
収入		24,406
収入	営業収益	23,936
	医業収益	21,526
	運営費負担金	2,124
	補助金等収益	286
	営業外収益	136
	運営費負担金	46
	財務収益	5
	その他営業外収益	85
	臨時利益	0
	資本収入	334
	運営費負担金	0
	長期借入金	300
	その他資本収入	34
その他収入		0
支出		24,952
支出	営業費用	22,755
	医業費用	22,297
	給与費	10,795
	材料費	7,638
	経費	3,883
	研究研修費	100
	一般管理費	458
	給与費	446
	経費	12
	営業外費用	132
	臨時損失	0
	資本支出	2,065
	建設改良費	1,390
	償還金	593
	その他資本支出	82
その他支出		0

※1 計数は項目ごとに端数を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※2 期間中の診療報酬の改定、給与改定、物価の変動等は考慮していない。

[人件費の見積り]

期間中総額 11,121 百万円を支出する。

なお、当該金額は、役員報酬、職員基本給、職員手当、法定福利費及び退職手当の額に相当する。

[運営費負担金の繰出基準等]

救急医療等の行政的経費及び高度医療等の不採算経費については、毎年度総務省が発出する「地方公営企業繰出金について」に準じた考え方により算出する。建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金については、経常費助成のための運営費負担金とする。

2 収支計画（令和7年度）

（単位：百万円、税抜）

区分		金額
収入の部		24,111
	営業収益	23,983
	医業収益	21,487
	運営費負担金収益	2,124
	補助金等収益	286
	資産見返負債戻入	86
	営業外収益	128
	運営費負担金収益	46
	財務収益	5
	その他営業外収益	77
	臨時利益	0
支出の部		25,204
	営業費用	23,910
	医業費用	23,454
	給与費	10,669
	材料費	7,623
	経費	3,609
	減価償却費	1,460
	研究研修費	93
	一般管理費	457
	営業外費用	1,294
	臨時損失	0
純利益		△1,094
目的積立金取崩額		0
総利益		△1,094

※1 計数は項目ごとに端数を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※2 期間中の診療報酬の改定、給与改定、物価の変動等は考慮していない。

※3 本表は各項目から消費税及び地方消費税相当額を控除し、同額を営業外費用に計上している。

3 資金計画（令和7年度）

（単位：百万円、税込）

区分		金額
資金収入		29,983
資金収入	業務活動による収入	24,067
	診療業務による収入	21,526
	運営費負担金による収入	2,170
	その他の業務活動による収入	371
	投資活動による収入	34
	運営費負担金による収入	0
	その他の投資活動による収入	34
	財務活動による収入	305
	長期借入れによる収入	300
	その他の財務活動による収入	5
前年度からの繰越金		5,577
資金支出		29,983
資金支出	業務活動による支出	22,887
	給与費支出	11,121
	材料費支出	7,638
	その他の業務活動による支出	4,127
	投資活動による支出	1,081
	有形固定資産の取得による支出	999
	その他の投資活動による支出	82
	財務活動による支出	984
	長期借入金の返済による支出	300
	移行前地方債償還債務の償還による支出	293
	その他の財務活動による支出	391
	次年度への繰越金	5,031

※1 計数は項目ごとに端数を四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

※2 期間中の診療報酬の改定、給与改定、物価の変動等は考慮していない。

第7 その他市の規則で定める業務運営に関する事項

1 施設及び設備に関する計画（令和7年度）

（単位：百万円、税込）

内容	予定額	財源
施設、医療機器等整備	1,390	静岡市長期借入金等

《 用語解説 》 (五十音順)

【あ】

- ・ 医業収支比率
(医業収益／医業費用) ×100
- ・ イージーイーターネット
静岡県静岡医師会が中心となり設置している、静岡市内の病院と診療所の間で紹介状等のやり取りを電子メール及びFAXを介して行う仕組み。
- ・ 委託費比率
(委託費(一般管理費除く)／医業収益) ×100
- ・ 1日平均入院患者数
延べ入院患者数／365日又は366日
- ・ 医療法第25条第1項に基づく立入検査
病院が医療法及び関連法令により規定された人員及び構造設備を有し、適正な管理を行っているか、市長が任命した医療監視員による立入検査。原則年1回実施。
- ・ 医療DX(デジタルトランスフォーメーション)
診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、診療報酬の請求などにおいて発生する情報やデータを通して、医療関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、より良質な医療を受けられるよう戦略的、構造的に再構築していくこと。
- ・ インシデントレポート
事故につながりかねない医療行為を未然に防げた例や、実施されたが結果的に患者に傷害や不利益を及ぼさなかった事象、日常診療で起こりそうな医療事故や医療過誤などに事前に気付いて対処できた事例などの報告書。

【か】

- ・ カテーテルアブレーション
カテーテルという直径2mm程度の細い管を足の付け根から心臓に挿入し、不整脈発生箇所をカテーテルで焼き切る治療法。
- ・ がん遺伝子パネル検査
がん細胞の遺伝子を調べ、がんの特徴から一人ひとりに適した治療法を探す検査。
- ・ がん教育
健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、患者や家族などがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深め、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育。
- ・ がんゲノム医療連携病院
中核拠点病院および拠点病院と連携してエキスパートパネル(がん遺伝子パネル検査の結果を医学的に解釈するための会議)に参加し、患者に説明できる病院。令和7年1月現在、全国に230ヶ所。
- ・ 看護師特定行為研修
看護師が手順書により特定の行為を行う場合に、特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修。
- ・ 冠動脈インターベンション(PCI)
狭くなったり(狭窄)詰まったり(閉塞)した冠動脈をカテーテルという細い管を用いて治療する方法。

- ・逆紹介率

$$\text{逆紹介患者数} / \text{初診患者数} (\text{※}) \times 100$$

$$(\text{※}) \text{ 初診患者数} = \text{初診患者総数} - (\text{救急車により搬入された初診患者数} + \text{休日又は夜間に受診した救急初診患者数})$$
- ・救急搬送応需率

$$\text{転院を除く搬送人員} / \text{問い合わせ回数}$$
- ・クリニカルパス
 治療や検査にあたってどのような経過をとるのか、その実施内容や順序を示したスケジュール表のこと。医療の介入内容を一元化することで、チーム医療の実現、医療の質の向上を図ろうとするもの。
- ・経常収支比率

$$(\text{経常収益} / \text{経常費用}) \times 100$$
- ・経費比率

$$(\text{経費} (\text{一般管理費除く}) / \text{医業収益}) \times 100$$
- ・高度急性期
 急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する必要がある時期のこと。高度急性期－急性期－回復期－慢性期
 (急性期) 病気や怪我による症状が急激に現れ、健康が失われる時期のこと。
 (回復期) 患者の容態が危機状態(急性期)から脱し、身体機能の回復を図る時期のこと。
 (慢性期) 病状は比較的安定しているが、治癒が困難で病気の進行が穏やかな状態で続いている時期のこと。
- ・公立病院経営強化ガイドライン
 持続可能な地域医療体制を確保するため、「経営力の強化」や「病院機能強化」を目指し、令和4年3月に総務省から公表されたガイドライン。

【さ】

- ・在宅復帰率

$$\text{自宅又はそれに類する施設に退院された患者数} / \text{死亡等を除く退院患者数}$$
- ・紫外線照射ロボット(ライトストライク)
 パルス方式キセノン紫外線を自動照射することで、短時間に高頻度接触表面を消毒することができ、十分な消毒効果を発揮することができるロボット。
- ・資金不足比率

$$(\text{資金不足額} (\text{※}) / (\text{営業収益} - \text{受託工事収益の額})) \times 100$$

$$(\text{※}) \text{ 資金不足額} = \text{流動負債} + \text{建設改良等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債残高} - \text{流動資産}$$
- ・静岡県地域医療構想
 地域の医療提供体制の将来の目指すべき姿として静岡県が作成。病床の機能分化、在宅医療等の充実、医療従事者の確保・養成、介護従事者の確保・養成、住まいの安定的な確保を掲げている。
- ・シミュレーションラボ室
 医師や研修医、看護師その他メディカル・スタッフ等が、随時トレーニングを行えるよう、様々なシミュレーション機器を取り揃えた研修室。
- ・重症度、医療・看護必要度Ⅱ

$$\text{基準を満たす患者} (\text{※}) / \text{延患者数} (\text{評価対象外患者を除く})$$

$$(\text{※}) \text{ 基準を満たす患者} : \text{次のいずれかに該当}$$
 - ①A得点3点以上、②A得点2点以上かつB得点3点以上、③C得点1点以上
- ・紹介率

$$\text{文書により紹介された患者数} / \text{初診患者数} (\text{※}) \times 100$$

$$(\text{※}) \text{ 初診患者数} = \text{初診患者総数} - (\text{救急車により搬入された初診患者数} + \text{休日又は夜間に受診した救急初診患者数})$$

- ・職員給与費比率

$$(\text{給与費 (一般管理費除く)} / \text{医業収益}) \times 100$$
- ・診療材料費比率

$$(\text{診療材料費} / \text{医業収益}) \times 100$$
- ・ステントグラフト治療
 ステントといわれるバネ状の金属を取り付けた人工血管を、カテーテルで足の付け根から施術する、患者の身体への負担が非常に少ない治療法。

【た】

- ・第一種感染症指定医療機関
 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律で定められた一類感染症（エボラ出血熱、天然痘、ペスト等）、および二類感染症（結核、SARS、MERS 等）の患者を受け入れる医療機関。
- ・地域医療支援病院
 紹介患者に対する医療提供や医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線で地域医療を担うかかりつけ医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有すると都道府県知事が承認した病院。
- ・地域がん診療連携拠点病院
 地域におけるがん治療水準の向上に努め、がん患者や家族に対する相談支援や、がんに関する各種情報の提供等、県が定めたがん診療機能などの指定要件をクリアし、質の高いがん医療を提供することができる病院。
- ・地域救急貢献率

$$\text{当院救急搬送患者数} / \text{静岡医療圏救急搬送患者数}$$
- ・地域連携パス
 急性期病院から回復期病院等を経て、早期に自宅で療養できるよう診療計画（クリティカルパス）を作成し、関わる全ての医療機関で共有するもの。複数の医療機関で役割を分担することで、医療連携体制に基づきチームで患者を支える。

【な】

- ・2025 年問題
 「団塊の世代」が後期高齢者（75 歳以上）を迎えることで国民の 5 人に 1 人が 75 歳以上となり、雇用／医療／福祉といった日本経済や社会の広い領域に深刻な影響を及ぼす諸問題の総称。
- ・2040 年問題
 「団塊ジュニア世代」が 65 歳以上を迎え、総人口に占める高齢者の割合が大幅に増加し、労働力不足や経済の停滞、社会保障費の増大や医療／介護需要の急増が予想される諸問題の総称。
- ・入院患者の転倒・転落発生率

$$\text{転倒・転落者数} / \text{入院延べ患者数} \times 100$$
- ・入退院支援加算
 入院早期より退院困難な要因を有する患者を抽出し、退院・在宅復帰に向けて支援すると算定できる診療報酬。

【は】

- ・病床稼働率

$$(\text{1 日当たり入院患者数} / \text{病床数}) \times 100$$
- ・不良債務比率

$$(\text{不良債務} (※) / \text{医業収益}) \times 100$$

$$(※) \text{ 不良債務} = \text{流動負債} - (\text{流動資産} - \text{翌年度繰越財源})$$
- ・平均在院日数

$$\text{在院延べ患者数} / ((\text{新入院患者数} + \text{退院患者数}) \times 1 / 2)$$

【や】

- ・薬品費比率
 $(\text{薬品費} / \text{医業収益}) \times 100$

【ら】

- ・累積欠損金比率
 $(\text{累積欠損金 (当期未処理損失)} / \text{営業収益}) \times 100$
- ・連携安心カード (オレンジカード)
当院と静岡市静岡医師会の診療所で医療情報を共有し、紹介・逆紹介患者に安心感を与えると共に、急変時の速やかな医療の提供を目的としたカード。

【D】

- ・D P C入院期間Ⅱ
D P C (※) 分類ごとに計算された平均在院日数
(※) D P C (診断群分類)
入院期間中に医療資源を最も投入した「傷病」と、手術、処置、化学療法などの「診療行為」の組合せにより分類。約 500 の疾患に対して 4,000 以上の診断群に分類している。

【O】

- ・OJT (On-The-Job Training)
職場での業務を通して行う教育訓練。職務遂行に必要な知識やスキルを、上司など指導担当者が教育・育成する方法。

【R】

- ・R P A (ロボティックプロセスオートメーション)
パソコン上で日常的に行っている事務作業を自動化するソフトウェアロボット技術。